



政治専攻「演習 1」
第 1 期第 1 次募集



【目次】

1. 募集について	
2. 募集に関する注意事項	1 頁
3. 選考方法	2 頁
4. ゼミ内容	3 頁
➤ 稲垣 浩先生	5 頁
➤ 小原 薫 先生	6 頁
➤ 菊田 真司 先生	7 頁
➤ 坂本 一登 先生	8 頁
➤ 芝崎 祐典 先生	9 頁
➤ 羅 芝賢先生	10 頁
➤ 藤嶋 亮 先生	11 頁
➤ 山本 健太郎 先生	12 頁

1. 募集について

【募集スケジュール】

第Ⅰ期第Ⅰ次募集	
応募期間	2025年10月6日（月）正午～10月20日（月）12時50分
選考期間	2023年10月21日（火）～10月27日（月）
可否発表	2023年10月28日（火）20時予定 K-SMAPYⅡにて

※第Ⅰ期第Ⅱ次募集の実施は第Ⅰ期第Ⅰ次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第Ⅰ期第Ⅱ次募集	
応募期間	2025年10月30日（木）正午～11月5日（水）12時50分
選考期間	2023年11月6日（木）～11月11日（火）
可否発表	2023年11月12日（水）20時予定 K-SMAPYⅡにて

※第Ⅰ期第Ⅱ次募集において、全Ⅰ年生が登録できていない場合に限り、未確定者を対象に第Ⅰ期第Ⅲ次募集を行います。

【応募方法】

K-SMAPYⅡより

※ログイン後、上部バナー「共通」から「アンケート回答」より応募してください。

※K-SMAPYⅡからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので必ずK-SMAPYⅡからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 上記の募集期間に必ず応募してください。応募期間外の実募は認められません。
- (イ) K-SMAPYⅡからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ず K-SMAPYⅡから応募も行ってください。
- (ウ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認の上、応募するようにして下さい。
- (エ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎはいたしません。
- (オ) 政治専攻では、同一年度に複数ゼミを受講することが出来ます。2 目目のゼミを希望する場合には 11 月に行われる**第Ⅱ期募集**で応募できます。
- (カ) ゼミに合格後、他のゼミへの変更はできません。
- (キ) 各教員の連絡先は個人情報のため、お教えできません。
- (ク) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9 時～12 時 50 分 ②13 時 50 分～20 時 30 分
法学資料室（若木タワー7 階）	①9 時～17 時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますので、ご注意ください。

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
稲垣 浩	レポート	メール送付 inagakih@kokugakuin.ac.jp 10月21日(月)12時50分	①最近気になった自治体行政に関する話題 ②本ゼミへの志望動機	(書式) A4用紙 (40字×36行) (字数) 題目①500字以上800字以内 題目②300字程度
	面接	10月21日(火) 14時45分～17時30分	若木タワー8階0807研究室	
小原 薫	レポート	面接時持参	小原ゼミへの志望理由と、最近関心のある政治、社会の問題	(書式) 自由 (字数) 600字程度
	面接	10月21日(火) 12時00分～12時50分	若木タワー8階0801研究室	
菊田 真司	レポート	面接時持参	自己紹介とゼミの志望理由	(書式) A4 (字数) 1,000字程度
	面接	10月24日(金) 12時10分～	若木タワー7階0712研究室	
坂本 一登	レポート	メール送付 kazutos@kokugakuin.ac.jp 10月26日(日)23時59分	志望理由と最近関心を持っている政治的出来事について	(書式) 自由 (字数) 1,000字程度
	面接	10月27日(月) 16時15分～17時00分	若木タワー7階0705研究室	

教員名	選考方法	提出方法・レポート締切日時	レポート内容	備考
		面接日時	面接教室	
芝崎 祐典	レポート	面接時持参	(1)ゼミ志望理由 (2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと	(書式) Word (字数) 800～1,000 字
	面接	10月23日(木) 18時00分～	3310 教室	
羅 芝賢	レポート	メール送付 j-na@kokugakuin.ac.jp 10月19日(日)23時59分	①これまで読んだ政治・行政に関する本の中で、最も興味深かったものとその理由 ②ゼミ志望理由	(書式) A4・Word (字数) 800～1,000 字
藤嶋 亮	レポート	メール送付 rfujishima@kokugakuin.ac.jp 10月19日(日)12時50分	簡単な自己紹介、ゼミの志望理由、関心のある政治・社会問題について	(書式) 自由 (字数) それぞれ400字程度 計1,200字 <u>必ず連絡がつくメールアドレスをレポートに記載してください</u>
	面接	10月21日(火) 13時00分～16時30分	オンライン	
山本 健太郎	レポート	アンケート画面で回答	ゼミを志望する理由 (メールアドレスと学籍番号・学年・氏名を記載し、「最も関心を持っている社会問題」を含めること)	(書式) 自由 (字数) 800 字程度
	面接	10月24日(金) 12時30分～15時00分	若木タワー8階0819 研究室	

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	稲垣 浩
演習テーマ	行政・地方自治・地域社会の動態分析
演習内容	このゼミは、文献の講読や実地調査などを通じて、行政・地方自治の現状や動態に迫ろうとするものです。2025年度は前期に少子化や関係人口関連の自治体の施策に関する図書を講読し、グループによる自治体への実地調査などを行いました。また、香川県での調査合宿や横須賀市などでのまちあるきなど、「現場」での学びも大切にしています。 2026年度も、前期は全員で行政・地方自治に関する図書や論文を読み、報告者による発表、ゼミ生全員にコメントペーパー（A4用紙1枚程度／毎回）の提出、ディスカッション、グループ調査を行います。夏休みから後期にかけては、各自の関心に基づいて研究テーマを設定し、それらについて調査・研究した内容を論文にまとめます。夏休み中には、自治体等の視察を含めた合宿を行うほか、一年を通じてまちあるきや自治体へのインタビュー調査などを可能な範囲で行う予定です。 フィールドワークや取材など、外部との接触が多くなることが予想されますので、外部の方々に礼儀正しく接することができる学生、またはそれらの能力を高めたいと考える学生を求めます。また、他者とのディスカッションやグループ学習に主体的に参加・協力できる学生を求めます（協力できない学生、協力したくない学生は応募をご遠慮ください）。 課題レポートには、取り上げる自治体行政に関する話題が「なぜ」気になり、それに対してどのように考えたのか、応募者のプライバシーや個人情報や過度に犠牲・露出しな程度で具体的に明記してください（題目①）。また、志望動機を300字程度で記入して下さい（題目②）。
教科書	授業中あるいは授業前に適宜指示する。
参考文献	中野邦彦・本田正美（2021）『地域研究ハンドブック』勁草書房 磯崎・金井・伊藤（2025）『ホーンブック地方自治（新2版）』北樹出版 曾我謙悟（2019）『日本の地方政府』中公新書 辻陽（2019）『日本の地方議会』中公新書 など
備考	上記の参考文献は、基礎的な知識となる行政・地方自治の現状を知るための参考文献です。 面接は、基本的に10月21日（火）の14時45分から17時30分までの時間帯に対面で行いますが、応募者とメールで事前に日程を確認・調整する予定です。そのため、提出するレポートに連絡先となるメールアドレスを必ず記載し、こちらから送付するメールを必ず確認するようにしてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治と思想について考える
演習内容	今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。安全保障、日米関係、外国人問題も、大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。戦後 81 年を迎える 2026 年は、今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想を含めて議論をしていく。 前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。 レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。
教科書	指定しない
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	荻田 真司
演習テーマ	AI と民主主義
演習内容	2022 年 11 月の ChatGPT の公開以後、生成 AI は急速な発展を遂げつつあり、既に情報収集の重要な手段になると同時に、さまざまな判断の補助として重要なパートナーになっています。 それでは、この AI 時代における政治とはどのようなものになるのでしょうか？日本でも AI を政治の場で有効活用する「デジタル民主主義」の動きが始まっていますが。テクノロジーがもたらす未来を悲観的にとらえるか、民主主義をバージョンアップするための重要な手段としてとらえるかで、その評価は大きく分かれています。 この演習では、具体的な「デジタル民主主義」の方法とその背景にある基本的な概念を再検討し、AI 時代の民主主義について、広い視野から考えてみたいと思います。 演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分で決めたテーマについての論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。 選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。
教科書	李 舜志、『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?』、集英社新書、2025 年 橘 玲、『テクノ・リバタリアン 世界を変える唯一の思想』、文春新書、2024 年、など
参考文献	オードリー・タン、E・グレン・ワイル、『PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来』、2025 年 ヤニス・バルファキス、『テクノ封建制 デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する とんでもなく醜くて、不公平な経済の話。』、集英社、2025 年、など
備考	・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jp までメールで送ってください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	明治人の気骨
演習内容	来年度は、一軍人の生きざまと活動を通して、明治および大正・昭和という戦前といわれる時代を感じ取り、考えることを、テーマとする。主人公となるのは、石光真清という陸軍軍人で、彼が残した手記を編集したものを読む。石光は、幼少期に熊本で西南戦争を目撃し、長じて陸軍幼年学校に入り、軍人として日清戦争、日露戦争、ロシア革命に遭遇し、抗いがたい世界の潮流に翻弄されながら、満州、シベリアで諜報活動に従事した人物である。その手記は、手に汗握る冒険につぐ冒険で、その数奇な運命は、現代の日本人とは全く異なったメンタリティーをもつ明治人の人となりや、時代相を活写している。また、この4部作は、自伝の傑作として名高い。 演習の内容は、前期は上記の石光真清著『城下の人』『曠野の花』『望郷の歌』『誰のために』を講読していく。毎回、報告者一人を決め、その報告にもとづいてフリーディスカッションを行う。 後期は、ゼミ論の作成を行う。2年生は4000字程度、3年生は12000字程度の小論文を、完成させることを目標とする。 前期の報告、後期のゼミ論執筆が必須で、それらを行わない学生には、単位が与えられない。
教科書	石光真清著『城下の人』『曠野の花』『望郷の歌』『誰のために』（中公文庫）
参考文献	
備考	この演習は、1年間のみである。応募しようとする人は、その点を注意すること。不明な点は、メールで問い合わせてください。また、指定された面談時間が都合悪い人は、事前にメールで相談すること。時間変更は可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	芝崎 祐典
演習テーマ	国際関係の歴史
演習内容	国際関係について歴史を通じて勉強します。対象とする時期は主に第二次世界大戦後から現代までです。場合によってはそれ以前を扱うこともあります。地域はアメリカやヨーロッパ、日本が中心です。テーマは戦争原因論や、外交・安全保障から社会・文化まで幅広く視野に入れますが、それぞれの年度はそのいずれかに焦点を当てます。 前期は国際関係の歴史に関わる文献を輪読します。割り当て箇所を発表してもらい、それをもとに参加者全員で討議します。読んでもらう課題文献の分量は少なくなく、密度も高いものなので、積極的に勉強したい学生を歓迎します。 後期は参加者各自がテーマを設定し、自らリサーチしてまとめた研究を発表してもらいます。期末にはそれに基づいたゼミ論（研究論文）を提出してもらいます。テーマ設定や研究の進め方、論文の書き方などの方法論については随時指導します。 （＊進め方は参加人数によって適宜調整します。）
教科書	開講時にご案内します。
参考文献	開講時および授業中に適宜ご案内します。
備考	ゼミに応募を希望する学生は、以下のレポートを Word で作成して面接時に持参してください。 (1) ゼミ志望理由、(2)勉強の中で今まで最も関心を持ったこと（国際関係論や国際関係史に限らず、何の分野でも良い）：この二つを盛り込んで自由に文章を作成してください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	羅 芝賢
演習テーマ	現代日本行政
演習内容	2026年度は情報ネットワークと行政組織をテーマとします。 文字、印刷機、電信、インターネットといった情報技術の誕生を、国家が果たした役割を抜きに語るとは難しいでしょう。しかし、国家が新たな情報技術を生み出すという側面がある一方で、新たな技術によって形成された情報ネットワークが行政組織のあり方を規定することもあります。 例えば、19世紀以降に生まれた近代国家は、領土のすみずみにまで情報を伝達するための郵便や電話といったインフラを構築し、それに合わせて税務、警察などの業務を遂行する組織を創設しました。しかし、20世紀末にインターネットという新たな情報技術が登場したときには、その情報ネットワークの中心的な存在になることはできませんでした。 つまり、既存の情報技術に合わせた物理的なインフラと組織ができあがってしまうと、後の時代に新たな情報技術が登場したときには、それを使いこなす主役になることは難しくなるのです。そうだとすれば、生成AIがもたらす社会の大きな変化が予測されている今日において、それは行政組織にどのような影響を及ぼすことになるのでしょうか。 こうした問題意識を踏まえて、2026年度の演習では情報ネットワークと行政組織の関係を歴史的に検討します。前期は、文献輪読を通じて、報告の仕方、コメントの仕方、参考資料検索の仕方などを身につけることを目標とします。後期は、輪読を完了した後、ゼミ論文の完成を目指して研究を行い、論文報告会を開催します。
教科書	ユヴァル・ノア・ハラリ『NEXUS 情報の人類史』 マイケル・マン『ソーシャルパワー』
参考文献	適宜紹介します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	藤嶋 亮
演習テーマ	ヨーロッパ政治の変容
演習内容	近年、EUの危機、難民・移民問題、新型コロナウイルス感染症のパンデミック、そして各国におけるポピュリズムの席卷など、ヨーロッパ政治の危機や変動が語られてきましたが、ロシアのウクライナへの軍事侵攻により、文字通り激動の時期を迎えました。こうした状況だからこそ、どのような性格の危機なのか、実際にどのような変化が生じているのか、じっくりと見定める必要があると考えられます。以上のような問題関心から、ヨーロッパ政治の現在地について、歴史的視点や、日本を含めた他の先進民主主義国との比較を重視しながら、その「変容」を跡づけ・位置づけていきたいと思います。授業の進め方としては、前期はヨーロッパの政治・歴史をテーマとした新書・概説書、後期はヨーロッパ現代政治に関するやや専門的な文献を全員で読み進めます。後期はさらに、参加者が関心を持った個別テーマの報告を行います。また、初回の授業時に、各回の担当班を決定し、第2回目以降、発表と全員が毎回事前に提出するコメントに基づき、内容の確認や検討、討論を行います。取り上げるテキストはいずれも骨太の内容であり、関係するテーマ・領域も多岐にわたりますので、自分なりの関心・問題設定に基づいて、毎回の演習に臨む姿勢が期待されます。
教科書	
参考文献	イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ』（岩波書店、2018年） 松尾秀哉他編『教養としてのヨーロッパ政治』（ミネルヴァ書房、2019年） フィリップ・テア『東欧の体制転換と新自由主義：1989年以後のヨーロッパ』（みすず書房、2025年）など
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	Z世代と政治・社会
演習内容	いわゆる「Z世代」の中心に位置する皆さんから見て、政治や社会の課題はどのように映っているのでしょうか。担当教員が専攻する日本政治においては、ソーシャル・メディアの存在感が大きくなるにしたがって、世代による「政治の見え方」が変わっているのではないかと考えられます。他方、これからますますZ世代が社会の中心に躍り出るにつれて、社会の側がZ世代をどうとらえ、どう分析するかということも問題になってきています。 このゼミでは、Z世代にとっての政治・社会のリアリティをゼミ生の皆さんから提示してもらうとともに、少し上の世代から見てZ世代がどのように分析されているかについても検討していきます。つまり、「自分たちはどう考えているか」に加えて、「自分たちは（他者から）どう見えているか」を知ることで、みなさんの自己分析につなげてもらえればと考えています。 具体的なテーマとして想定しているのは下記のような内容です。 ・Z世代とソーシャルメディアと選挙・政治 ・消費者・勤労者としてのZ世代 ・少子化の行方とZ世代のリアル 本ゼミでは、最終的に個人で関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションをしてもらう予定です。出席は基本的に義務ですので、やむを得ず欠席する場合は事前連絡が必要になります。無断欠席が続く場合は、不可／除籍とすることがあります。 なお志望理由レポートには、①メールアドレスと学籍番号・学年・氏名、②「最も関心を持っている社会問題」を含めておいてください。
教科書	初回のゼミで紹介しますが、下記のものを想定しています。 舟津昌平（2024）『Z世代化する社会：お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社。 メアリー・ブリントン（2022）『縛られる日本人：人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。
参考文献	ゼミで適宜紹介します。
備考	面接時間はメールで各自に通知しますが、あらかじめ都合がつかない場合は、下記メールアドレスまでご一報ください。 質問・問い合わせ先：kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp